

トンボが飛び交う世界にするため」

藤枝市内小学校

山本さん

「夏が来た。今年もたくさんトンボに会えるぞ。」

ぼくは、一年生から毎年トンボの研究をしている。トンボが高くまでぐーんと飛んでゆく姿は勇ましい。それが、ぼくがトンボに夢中になる理由だ。

ある日、テレビを観ていてびっくりするニュースを知った。それは、「アキアカネが二十一年間で、九十九・九％減少している」という内容だった。このままではアキアカネが見られなくなってしまいかもかもしれない。そう思って、原因を調べてみることにした。

原因は二つあるようだ。一つ目は田んぼが減ってヤゴのすみかがなくなっていることだ。二つ目は、田んぼに農薬がまかれて、ヤゴが死んでしまっていることだ。

国や大人達は、この緊急事態にどんな対策をしているのかも分かった。環境省が二〇一五年からアキアカネが減少している地域の農薬の調査が始まった。調査で農薬がアキアカネの減少の原因かどうか証明して、農家に農薬の使用を減らすことを理解してもらおうことが目的だ。また、

兵庫県たつの市では、地域の人が協力し合ってアキアカネの人工飼育をしている。これらの取り組みを知って、数を減らしたのは人だけど、その数を増やし救うことが出来るのも人だと思う。

ぼくは、静岡県の磐田市の桶ヶ谷沼で、ベッコウトンボを見た。ベッコウトンボは、絶滅危惧種でも貴重なので見られた時はとてもうれしかった。そこで気づいたことは、ちゅう車場から沼がはなれていたり、草はからずにそのままにしたり、かべをコンクリートにかえたりせずに自然をそのまま残していた。そうやってベッコウトンボが生きやすい環境を守っていることが、素晴らしいと思った。そう思うとなおさらベッコウトンボに会えたことはいれなかった。

ぼくがトンボのために出来ることを考えてみた。それは三つある。一つ目は川や池や沼にゴミは絶対に捨てないこと。落ちていたゴミは出来るかぎり拾って持ち帰りトンボがすみやすい環境を作ること。二つ目は、ヤゴやトンボはその場で観察して、つかまえてもキャッチアンドリリースすること。

三つ目は、外来種やその場所に元々いない生き物は、はなしたりしないこと。

この三つのことはぼくが生き物をつかまえたり観察する時に守ってきたことだ。ぼくが出来ることは小さいことかもしれないけれど、こ

れからも続けてゆくことでトンボを守るために努力してきた大人の人達の役に立ちたいと思う。